



北海道大学工学部

同窓会会報 2025年

2025年7月1日発行

北海道大学工学部同窓会事務局

同窓会の皆様へ



北海道大学工学部同窓会長 幅崎 浩樹

2023年度より2年間工学部同窓会長・工学部長を務めてまいりました。この2年間で最も大きなイベントは工学部100周年記念事業でした。工学部と同じく、本同窓会も100周年を迎えることから、宮永喜一理事長（公立千歳科学技術大学理事長・学長）をはじめとする同窓会会員の皆様のご支援を得て、300名を超える方のご臨席を賜り2024年9月に100周年記念式典、記念講演会、祝賀会を盛大に開催することができました。また、同窓生の皆様を中心に100周年記念事業への多大な寄附もいただきました。この場をお借りして衷心よりお礼申し上げます。

100周年記念事業のひとつとして、SDGsオアシスと名付けた交流スペースを工学部フロンティア応用科学研究棟1階に整備させていただきました。工学部各コースの最新の研究成果等を展示しております。同じフロアにはコンビニエンスストアも設置されていますので、この周りには工学部以外の学生等も集まっています。同窓生の皆様には、キャンパスへお越しの際にはSDGsオアシスを現役学生や教職員との交流の場としてご活用いただき、工学部の今を知っていただければありがたいと思います。また、オンラインでも工学部を知っていただく「ヴァーチャル工学部」の整備

を進めています。まだごく一部ですが公開を始めました。（<https://www.eng.hokudai.ac.jp/#p07>）さらに、工学部100周年を記念して、プロモーションビデオ（<https://youtu.be/JggDwSH-rDU>）も作成し、公開しております。いろいろな形で工学の魅力発信に努めてまいります。

工学部は今年度より次の100年を目指して動きだします。本学は今、北海道の開拓を目的として先進的な農業教育を導入して設置された札幌農学校以来の高い期待を受けています。すなわち、千歳市に設置された先端半導体製造拠点を中心とした半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点形成を目指す北海道デジタルパーク構想と国内随一の再生可能エネルギーの賦存量を誇る北海道にてグリーントランスフォーメーション（GX）産業集積の構想が動き出し、この実現に向けた本学への期待が大きくなってきています。まさに工学が先導すべき分野であり、工学人材の活躍が求められるところでもあります。新たな産業創出や地域創生に貢献する研究推進と工学人材の輩出に努めてまいりますので、同窓生の皆様の工学部へのますますのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

■ 学科紹介 No.4

環境社会工学科

学科長 岸 邦宏

環境社会工学科は、社会基盤学コース、国土政策学コース、建築都市コース、環境工学コース、資源循環システムコースの5コースからなる大学科です。昔を知る方ですと、土木、建築、衛生、資源が一つの学科を構成していると言った方が伝わるかもしれません。

住まい・地域・地球の新たな環境と社会の創造に貢献するために、豊かで住みやすい人間の生活、経済・社会活動に必要な調和のとれた環境をめざして、各コースがそれぞれに役割を果たすべく、研究・教育に取り組んでいます。具体的には、①都市・公園などの快適な空間の形成、②建物、道路、河川、上下水道といった建築・土木施設の構築、③持続可能で

環境に優しい資源エネルギーの開発、④物質循環システムの構築などを対象とする総合工学、を学問領域としています。学部教育においても、工学基礎・専門技術力の教育とともに、社会のニーズに対応したデザイン・コミュニケーション能力、多面的思考能力、社会的責任の認識に重点を置いて教育に取り組んでいます。基本的には各コースが独立して研究・教育に取り組んでいます。研究分野、学問分野においてもコース間で共通するところもあり、要所要所で横断的な連携をしているところです。

本学科に対する皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

社会基盤学コース

コース長 山田 朋人

近年、激甚化する気候変動や自然災害、人口減少、老朽化するインフラ、コロナ禍によるパンデミック、さらには国際的な政治の不安定化など、私たちを取り巻く社会は複雑さを増しています。こうした中で、科学技術の強化ならびにマネジメント能力の重要性はますます高まっています。土木工学科を前進に持つ社会基盤学コースでは、これらの課題に対応し、持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成を目指すとともに、国際的に活躍できる技術者の輩出を図っています。私たちは、国際的な視点を備え、安全で持続可能な社会基盤の構築に貢献できる技術者の育成を目指しています。そのため、橋梁、道路、鉄道、港湾、河川、上下水道などの社会インフ

ラの設計、施工、維持管理に関する高度な知識と技術を修得できる教育環境の整備を推進しています。また、最新のシミュレーション技術やデータサイエンスを活用したインフラ設計や、地震、洪水、気候変動などの自然災害に対応するための技術開発にも力を入れています。

社会基盤学コースは、今後も時代の変化に柔軟に対応しながら、未来を担う土木技術者の育成に努めてまいります。OB・OGの皆さまにおかれましては、引き続き後輩たちへのご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。今後とも変わらぬご支援とご交流をよろしくお願いいたします。

国土政策学コース

コース長 岸 邦宏

旧土木工学科は工学部の改組で大学科コース制に移行した際に、国土政策学コースと社会基盤学コースの2コースに分かれました。この2コースを私たちは「土木系コース」と称して、2コース一体的に土木工学の教育に取り組んでいます。なかでも国土政策学コースは、土木工学に関する基礎学力をベースとし、都市地域計画、施策の立案、合意形成、サステイナブル・インフラ技術、維持管理技術開発など、未来社会を提案し、その形成を実践していくための教育に重点を置いています。今年の3月の卒業生は、北大土木100期卒業生です。これまで100年にわたり作り上げてきた伝統を受け継ぎ、次の100年に向けて、私どもも社会のニーズに応えた新たな土木工学の展開を考えていかなければなりません。教育において

は、北大土木の卒業生として、社会のリーダーとして活躍できる人材を送り込んでいくことが我々の役目と考えております。

卒業生の皆様のご支援・ご協力の下、土木系コースの就職活動は、ほぼ全員が就職することができております。一方、民間企業の採用活動が年々早くなり、学生が自分自身で動くことが多くなり、大学が企業と連携する度合いが低くなっているのが課題となっております。一方で、国土政策学コースとしては、国家公務員、地方公務員の立場で国や地域をつくっていく人材も育成しなければなりません。同窓会の皆様との連携を強め、学生の指導に取り組んでいきたいと考えております。引き続きよろしくお願いいたします。

建築都市コース

コース長 森 傑

新型コロナウイルスの感染が完全になくなったわけではありませんが、今では非接触を基本とする感染拡大防止対策も大幅に緩和され、以前の対面による講義・演習や研究室活動、学生のリアルなキャンパスライフが戻ってきました。

建築都市コースは、カリキュラムが一級建築士の受験資格取得と直接繋がっていることもあり、修学にあたっての設計演習の比重が大きいです。コロナ禍ではオンライン教育に切り替えられましたが、その状況での設計教育は本当に難しいものでした。現在は、個性的な建築都市スタジオ棟を最大限に活用し、学生は熱心に製図室で図面を描き、講評会では意欲的なプレゼンテーションと活発な議論が行われ、活気ある学びの舎が復活しています。

最近の建築業界はかなり盛況だと言えます。東京を始め大都市では大規模な再開が済み、学生の就職状況も非常に良好です。今年は大阪・関西万博の開催もあります。建築分

野としてはデザインとエンジニアリングの両面において非常に注目すべきプロジェクトです。しかし、世論としてはネガティブな見方も少なくありません。なぜこれほどまでに万博が否定的に捉えられるのか。建築が消極的な意味でのレガシーとして批判されるのか。建築に携わる専門家には、社会の中での建築のあり方を客観的・反省的に見る力が求められています。

大阪・関西万博ではEXPO for SDGsが掲げられています。教育研究もSDGsに結びつけられることが多いですが、教員よりもむしろ学生の方々が、より自然な態度でSDGsを捉えているようにも思います。次世代の価値観を尊重し、最大限に可能性を引き出す指導を心がけたいと考えています。同窓会の皆様には、本コースの教育研究に変わらぬご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。引き続き、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

環境工学コース

コース長 松下 拓

環境工学コースでは、毎年11月に「衛生工学シンポジウム」を開催しております。本シンポジウムでは、民間企業・自治体・大学等の第一線で活躍されている卒業生の皆さまによる研究発表や事例報告、活動紹介、パネル展示に加え、修士・博士課程の学生による研究発表も行われ、相互理解の促進と幅広い交流の場となっております。一昨年には節目となる第30回を迎え、本年度は第32回の開催を予定しております。卒業生の皆さまには、ぜひご来場いただき、活発な意見交換と交流の機会としていただければ幸いです。

また、本コースでは、環境分野への強い志を持ち、本コースを第一志望とする学生を対象に、「フロンティア入試Type II」（定員5名）を2022年度より実施しております。これは、一般入試に先立って実施される筆記試験および面接の結果に基づ

き、合否を判定する新たな入学者選抜制度です。その第1期生が本年度、学部4年生となり、いよいよ研究室に配属されることとなりました。これからどのような研究活動を展開していくのか、非常に楽しみにしております。さらに本コースでは、「衛生工学・環境工学教育基金」へのご支援を広く募っております。本基金は、フロンティア入試で入学した意欲的な学生への奨学金給付、学部教育用設備の更新、さらには博士後期課程への進学を志す学生への経済的支援などに活用させていただいており、これらの取り組みを通じて、学生たちの夢や可能性を広げるとともに、本コースの社会的貢献のさらなる発展を目指しております。この趣旨にご賛同いただける皆さまにおかれましては、ぜひご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

資源循環システムコース

コース長 中島 一紀

現在、国を挙げて推進されているDX（デジタルトランスフォーメーション）やGX（グリーントランスフォーメーション）において、高度な電子・通信機器やエネルギー・環境関連技術の開発は不可欠です。これらの製品や技術には様々なレアメタル、貴金属、白金族、ベースメタルが用いられており、今後も持続可能な安定供給が強く求められています。本コースでは、現代社会の中の鉱物資源の流れをさまざまな角度から教育し、循環型社会で求められる創造性豊かな自立した技術者・研究者を育成しています。教育・研究の対象は非常に広く、「資源」、「環境」、「情報」、「リサイクル」というキーワードをもとに、地質・鉱物学、岩盤力学、情報科学、分離工学、移動現象論、生物工学など多岐に渡る分野での最先端技術を駆使

し、さらにそれらを融合することで次世代型の資源・環境工学に関する研究に取り組んでいます。2023年10月には新たに資源工学研究棟が完成しました。研究棟の1階には岩石・鉱石のプロセッシングや解析を行う次世代環境ラボと共用試料ストレージ、2階には固体や液体試料の分析・解析を行うための最新機器を配備した共通分析室、3階には部門教員・学生がディスカッションや各種イベントに利用できるリフレッシュラウンジを兼ね備えています。新研究棟の教育・研究設備の充実にあたり、多大なご寄付を賜りました卒業生の皆様に心より御礼申し上げます。教職員一同、これからも教育・研究に一層邁進していく所存ですので、今後も変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和6年秋 叙勲受章者

旭日単光章 上遠野 久夫氏(機械第二7期(S47年卒))

瑞宝中綬章 鏡味 洋史氏(北海道大学名誉教授)

令和7年春 叙勲受章者

瑞宝中綬章 榎戸 武揚氏(北海道大学名誉教授)電子工学専攻3期(S43年修了)

瑞宝中綬章 渡辺 義公氏(北海道大学名誉教授)衛生工学専攻7期(S44年修了)

【旭日章(キョクジツショウ)…功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた方】

【瑞宝章(ズイホウショウ)…公務等に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた方】

事務局より

☆同窓会ホームページの会員限定について紹介します。

「工学部同窓会 会員限定」ログインにはID・パスワードが必要です。

会員メニュー

①お知らせ 総会議案、逝去会員名簿、名誉教授名簿、同期会からの報告(写真付)など

②会員宛てメール依頼

同期会などの案内メールを会員宛に一斉送信する機能です。

手順①送り先(学科、卒業期)を決定

②本文で案内内容と送信依頼者の連絡先を記入

③事務局で内容確認後、一斉送信されます。

☆情報をお寄せください。

・逝去情報

・住所変更はHPから入力できます。また、ハガキ、FAXでも受け付けております。

・同期会の報告(Word、写真)をお寄せください。会員限定の「お知らせ」に掲載しています。

編集後記

今年の総会は東京開催となりました。5年前は新型コロナウイルス感染拡大を受けて中止となり10年振りの開催です。総会・講演会に続き、懇親会は東京同窓会主催の北大東京ジンパに合流し、盛大に幕を閉じました。同窓会では、在学生とOB・OG間での企業の情報交換の機会を増やすことを目的として、メールリストを活用したOB・OGの研究室訪問情報(日時・場所など)の配信を始めました。このように新しい活動を企画していきます。同窓会の財政状況は改善していません。同窓会の活動にご理解いただき、今後ともご支援頂ければ幸いです。



北海道大学工学部同窓会 〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目

TEL : 011-706-7131 FAX : 011-746-7914

Email : dosokai@eng.hokudai.ac.jp

URL : <https://www.eng.hokudai.ac.jp/dousoukai/>

